



新・みやぎ・シー・メール第33号

—Miyagi Sea Mail—

発行：令和2年5月27日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

令和元年度のノリ養殖について

企画・普及指導チーム

日本国内のノリ生産量は平成のはじめ頃の100億枚から減少し、近年は70億枚を下回っています。宮城県では震災前は6~7億枚の生産がありました。震災により生産者が減少したため、近年は3~4億枚となっています(図1)。

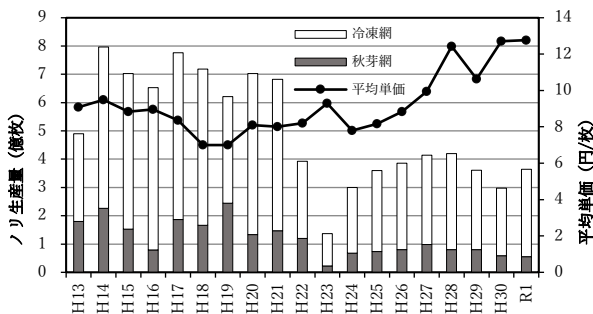


図1 宮城県のノリ生産量と平均単価の推移

宮城県の令和元年度のノリ生産は、11月27日に全国に先駆けて初入札が行われ、5月13日まで合計19回の入札会が行われました。生産量は364,126千枚、金額4,648,237千円、平均単価12.7円/枚となりました。平成30年度は仙台塩釜港で発生した重油流出事故により減産となりましたが、今漁期の生産量、金額、平均単価は対前年で122%、122%、100%となりました。近年、地球温暖化の影響により、全国的な不作となり、その品薄感から1枚あたり10円を超える高単価で推移しています。

宮城県では、9月下旬になると殻孢子(種)を付着させたノリ網を松島湾内の漁場に張り込み、適度な干出を与えながらノリの芽を育てる「育苗」作業が行われます。10月上旬から中旬に1~3cmに葉体が生長したノリ網は、一部は沖の各漁場に張り出して秋芽網として年内に収穫されます。残りの網は干出により乾燥をかけた後に冷凍庫に保管して、秋芽網の後に漁場に張り出して冷凍網として年明けから収穫されます。

特に、9月下旬から10月に松島湾内で行われる育苗は、非常に重要な工程で、その成否は、その年の漁場環境に大きく依存します。ポイントは、水温が23℃を下回り、その後も安定的に低下すること、冷凍入庫前に適度な比重(18σ¹⁵以上)のもとで干出作業が行われること等が好適な条件とされています。

令和元年度の育苗期の松島湾の漁場環境をみると、ノリ網の張り込みが行われた9月20日以降、水温は23℃を下回っていましたが、9月下旬から10月上旬にかけて気温の上昇により水温も23℃台に上昇しました(図2)。冷凍入庫は10月3~22日に行われましたが、その間、10月12~13日に台風19号が通過しました。台風通過により、ノリ網の被害が発生し、200mm/日を超える豪雨により漁場の比重が18σ¹⁵以下に大きく低下して、その後も低比重の状態が継続しました。育苗期は厳しい漁場環境となりましたが、生産者の皆さん適切なノリ網の管理により、生産量は大きく落ち込むこともなく、震災後2番目に高い生産金額となりました。

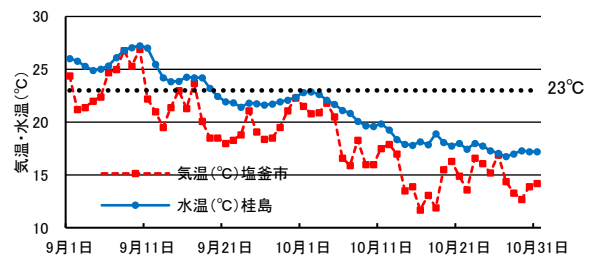


図2 育苗期の気温と水温の推移

宮城県はノリ養殖の北限となる生産地ですが、今後、温暖化の影響により、厳しい環境条件下で生産が強えられることが予想されます。当センターでは仙台地方振興事務所水産漁港部や宮城県漁協と協力しながら、ノリの育苗、生産漁場において、水温、比重、栄養塩濃度、ノリの生育状況等について調査を行い、ノリ養殖通報により生産者へ情報を提供することで、今後もノリ生産の安定化に貢献したいと考えています。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>